

2022年10月21～23日、石川県白山（はくさん）市において、第12回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会が開催されました。大会のテーマは『地球と旅する』です。

新型コロナウイルス感染症対策としてプログラムの一部はオンラインでも視聴可能となりました。大会では日本全国46地域のジオパークと、ジオパーク認定を目指す地域で活躍するガイドや推進組織のスタッフ、研究者らが集まり、資源保護やガイド育成等ジオパーク地域共通の課題について意見を交わしました。



感染対策をした会場での受付



各地域の取組や研究内容の発表



分科会では班ごとの意見交換

はくさんてどりかわ 白山手取川ジオパークはどんなところ？

白山手取川ジオパーク
(石川県白山市)



獅子吼（ししく）高原から見た手取川扇状地

石川県白山市全域がジオパークに認定されています。市の名前にもなっている白山は、石川県、富山県、福井県、岐阜県にまたがる山地を言い、最高峰の御前峰は標高2,702mの活火山です。

白山に降り積もった雪が、やがて手取川となって日本海にそそぐ壮大な水の循環システムを「山と雪」「川と峡谷」「海と扇状地」の各所で楽しめる地域として、2010年に日本ジオパークに認定されました。

手取川はこれまでに何度も土砂崩れや土石流を起こしてきた川ですが、一方ではこの豊かな水が穀倉地帯を潤し、人々の生活を支えてきました。

人々が水害を乗り越え、工夫を重ねてきた歴史を学べるジオパークでもあります。



【百万貫の岩】

昭和9年の水害で3km流されてきた、高さ16mの巨岩。水の勢いを物語る。



【七ヶ用水】 しちかようすい

手取川から水を引いていた7つの取入口を、一か所にまとめ、水量調節を可能にした。